

大津島データ 190世帯  
人口 272人 男113人 女159人  
高齢化率 77.9%  
(平成29年9月30日現在)

題字：六郎万淳一さん イラスト：まゆみさん



来島された学生さんと教授 (中央男性)

9月7日から2泊3日の日程で、私の大学の後輩達、拓殖大学(東京) 関ゼミナールの学生が14名来島しました。島では、島民インタビュー、釣り体験、馬島漁港清掃、交流会を行いました。インタビューでは、石丸和子さん、石丸ユキアさん、安達良子さん、佐々木義守さん、石田幸敏さんにご協力いただき、貴重なお話を

拓殖大学 関ゼミナール 来島  
報告：大友翔太

### 特集

大津島は、多くの方が訪れる島です。そして、島民が多くの方と交流をする島でもあります。今回の潮流は「交流」がテーマです。

聞かせていただきました。釣り体験では、アジ、サバ、カマス、など全部で100匹を超える大漁でした。学生のほとんどが関東出身のため、離島に行ったことがなく、海釣りをはじめ、多くのことが初体験の連続だったようです。今回、学生の受け入れに際し、運営準備を手伝ってくださった皆様、本当にありがとうございました。皆さまのおかげで、彼らは特別な時間を過ごすことができました。島の美しい海、空気、景色、新鮮な魚、方言、島民の優しさ。どれも決して東京では味わうことができないものばかりだったと思います。大津島には、沖繩のような派手派手しい観光要素があるわけではありません。しかし、それでいいと私は思います。大津島は、じわじわと染み込むような感動と体験を伝えていくことが大切だと思います。住んでいるからこその見えてくる「日常の楽しい」を切り取って、その面白さを外の人達に伝え、体感してもらう仕組みやプログラムを作る



8月25日。岩国市のホテルで山口県離島青年会議が開催されました。今年、柱島(岩国市)が、受け入れ担当でした。山口県離島青年会議は、年に一度、県内の離島在住者が集まり、会議や意見交換などを行う交流イベントです。今年で49回目を迎えた歴史ある会議です。大津島からは7年連続の参加になりました。今回は私と古城昭彦さんが参加しました。会議での派手な立ち回りもあり(笑)顔見知りも仲間も増え、大津島の知名度もかなり上がりました。今後継続的に参加したいと思えます。



山口県離島青年会議

報告：大友翔太

### 行事報告

島の主なできごとを写真で振り返ります。

#### 大津島地区敬老会

9/15(金) 海の郷で総勢108人の敬老会でお祝いをしました。



マッサージ無料体験会 10/15(日)、ふれあいセンターで、開催されました。(山口鍼灸マッサージ協会主催) 3名の先生から、14人が体験しました。

#### 学校校庭整備

10/8(日)、学校のグラウンドの草刈りを住民約40人と若潮の会12人でおこないました。



#### 須金交流会

9/25(月)今年も楽しみました。須金のみなさんありがとう!



#### 本浦港清掃

9/9(土)、ボランティアや学生と港の清掃を実施しました。



## ひろしの つぶやき

色々とあらあな!! と言う流行語があった。人それぞれの運命か宿命か境遇の違いでどうにもならぬあきらめの言葉か、零細な個人起業の採石工徒(カチ)仲間での採石場を渡り歩く、雨は休み、風も休み零細収入での生活苦。徒仲間の事故死、我が家の火災、再三の台風被害での作業場の流出破損、仕事なく無収入の生活など。過ぎ去った事だがその大部分の細部の事柄は思い出せない、記憶に留める時間も余裕も無かったのか、その頃「記憶にありません」の言葉がまん延した。何人も立ち入る事の出来ぬすこい言葉の様に記憶する。

その間に子供の進学、就職、結婚もあり、住居の新築増築も成したる事は事実だがその成り立ち細部の事々は思い出せない。只々ひたすら働いた事だ。只一つ鮮やかに思い出す、

文=屋野廣志



刈尾より作業場黒髪島まで渡る1t未満の小舟を樺島沖で海上保安庁の立入検査を受け救命浮環・消火器の設置無しでとがめられ2万円の罰金刑なる事件。納める余裕も無く納める気もなく忘れ、後日洗面用具を持ち法務局に出頭令が来る。嚴重に処罰せよとの海保から通達ありとの事、分割で納める事にて一件落着。

始末書の書き方、色々な体験はないが仲間の事故死、火災、採石現場の不備など何枚かの始末書を書いた覚えは有るが私の記憶も日々と消え失せ最後の始末書の子供等に書き置くと..... ひろしつぶやきへ。

※原文のまま掲載しています。

### 羊の羽は 丘にあり

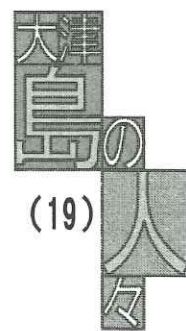
vol.02

島に移り住んだ頃、近江にある巖嶋神社へ散策に向かった。ガマの群生を分入るように続く参道を前にふと立ち止まると心地よい春の風が通り抜け、自然と肩の力が抜けてゆくのを感した。自然と共に暮らすこと。それは、自然からの恵を享受しながら大切なものを守り、次代へ繋げてゆくこととする人々の営みや意思そのものなのかもしれない。そう教えてくれた島の風景の記憶。

松田翔剛







かわしまゆりこ  
河島百合子さん

ふるさと回帰フェアに参加するため、9月10日(日)、東京国際フォーラムへ行って来ました。

この自然豊かな大津島が、衰退しないように、一人でも多くの人に来て欲しいという思いで、六郎万さん、松本さんに助けられ無事行って帰る事が出来ました。

会場に着くと、とても広い場所、全国47都道府県、350自治体が大集合し、約2万人の来場者を迎えました。

周南市ブースには、6組の方々立ち寄り来ました。なかには、静岡から片道2時間かけて来た親子は、子供が来年少学校に入学予定なので、一日も早く周南市に帰りたいと言われていました。その方の良い空き家が早くみつかったらと、私達も願っています。

その他にも、熊毛に帰りたいたか、昔、周南市に住んでいて、懐かしくて来られた方もいらっしやいました。

今回は、残念ながら大津島への移住を希望される方はいらっしやいませんでしたが、この様な活動を続けることで、少しでも大津島の良さを知ってもらえればと思います。



ふるさと回帰フェア周南ブース

### 若潮の会通信

中須北棚田清流の会との交流会  
文：古城美保子



立秋が過ぎながらも暑さの残る9月3日の日曜、中須北棚田清流の会の皆さんとの交流会が行われました。

大人数の食事の準備は大変で、前日から泊まり込みで魚貝の収穫、野菜の下ごしらえなどをした若潮の会の会員もおり、たくさん料理が並びました。

あこう鯛(キシハタ)という高級魚の刺身・アラ炊き、味噌汁では会員の料理長の下、てきばぎと調理や盛り付けが進みました。また、中須の皆さんからいただいた「中須米」の白むすびと、会員の母上様からいただいた「ささげごはん」もありました。

会場の皆さんの満面の笑顔が料理のおいしさを物語っているようで、交流会を楽しんでおられる様子が、こちらからも笑い笑顔になりました。

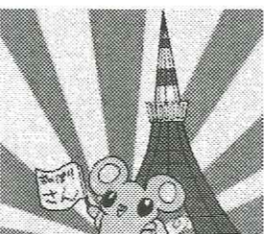
さらに、何と20年前に一緒に働いた同僚が参加しており、お互いに「あらま、こんなところで」とびっくりするやら嬉しいやら、人とのつながりの有難さを知ったいい一日となりました。

今後この交流会が続くことを心より願っています。

## 知っちょるかね

東京でれえぐれえ

文川松本千恵子



あねえにてれえぐれえせちよっちゃあ、このみやすい仕事でも、晩までかかるういの。

ぬるさくが、いつまでにやろうとも、どこまでやろうともせんと、人の※メドも気にせんのが、てれえぐれえ。

※メド川人の表情や気持ちのこと  
そのてれえぐれえが、花のお江戸の東京に行ったという。

移住促進のイベントに参加させてもらうらしい。  
生まれて初めての東京と

きては、さしものてれえぐれえもだいしよは気を張ろう。とにかく、連れて行ってくれた、六郎万さんと百合子さんに、自分を探させる事になっちゃあ、申し訳があるまあとて、とにかく二人の後ろをはぐれんよりに付いて行く。  
東京ちゅうところは都会

じゃから、どこへ行くにも、乗り物でパースと行かれるんかと思ったら、まあ、歩く。

ようやく着いた会場は、日本中から故郷を背負った人達のブースが、広い会場にギッシリ並び。

我が山口県からは、周防大島と岩国市と大津島。

なかなか、お客さんが足を止めてくれなかつたけれど、最初のお客さんから熱心に話され、六郎万さんとゆり子さんはじきに、田舎暮らしに興味がある人や山口県出身の人達と、にこやかに会話をしている。が、このてれえぐれえ、「しゅうニヤン市」の封筒を片手に、あっちへフラフラ、こっちへフラフラ歩き回り、かたのええ能登の祭り装束を着たニイちゃんに神様の露払いをする祭りだと聞き、うちに

も平家踊りや長持ち唄があるんよと方言で話す。見城美恵子先生を見かけるや、ミーハー気分そのまま話しかけ、このイベントは第二次から、見城さんも携わっていることや、周南にはこの前講演に行っていたりだったと言ってもらったりした。

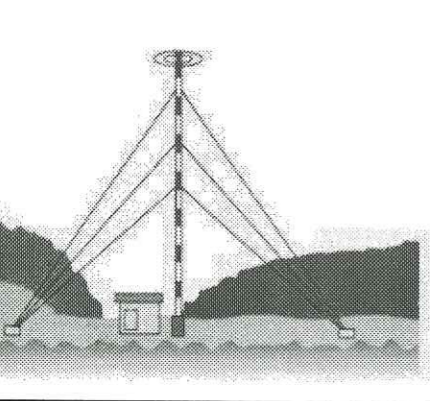
他にも、デザインを勉強している若い子のグループの一人が来月山口に行くんですよと話したり、若い女の子達とはすっかり気があつて今度きつと山口に行きますねと言ってもらった。

隣の岩国の人達とも、なかなか人の足を止めるのは難しいですねと話したり、六郎万さんとゆり子さんが、真面目に6組の方達と話して、お役目を果たしているのを横目に、私はすっかりてれえぐれえしていったという江戸日記。

帰ってからもみんなに、東京はどうじゃった?と聞かれたんじやが、このてれえぐれえ、一番覚えていたのは、遅れまい、はぐれまいとにらみつけていた、六郎万さんとゆり子さんの後ろ姿だったというお粗末。

山口放送の社屋とラジオアンテナは当初、久米にありましたが、山陽新幹線の建設に伴い社屋は動物園の横に、ラジオアンテナは近江に引っ越してきました。このアンテナからは昭和49年より電波が発信されていますが、今回はこのアンテナ建設が行われていた、私が高校2年の昭和48年の秋の話です。

この工事を請負っていた市内の建設会社の同級生の息子が、「島に行って騒ごうや」と私たちを誘い、当時、中心市街地にあったダイエーで未成年は飲んではいけないある飲物とつまみを購入。そして職人さん送迎用の渡船を使い、近江の飯場で一夜を過ごすことになりました。



## 徳山博見聞録

### 6. ラジオアンテナに現れた女神!

文川回天記念館

三崎英和

のです。このまま食事はとあきらめていた時、現場に出てこられた女性の方が、私たちのことを気の毒に思われ、どこからか米を調達されておかゆを作ってくれました。

箸はなかったもので、そこからへんに転がっている廃材の鉄の棒を使って食べました。味が、このたった一杯の塩味だけのおかゆが無茶苦茶うまかったこと。

あの時の女神は誰だったのでしょうか。未だに忘れられない思い出です。